第 315 回昭和の森観察会

日本人と自然

芳我めぐみ（千葉市）

日　時：2018 年 3 月 11 日（日）13：00～15：00　　天候：晴れ
参加者：大人 21 名　子ども 3 名　指導員 8 名　計 32 名
担当指導員：佐野由輝　芳我めぐみ

春の暖かい陽気の元、昭和の森の観察会は行われた。カタクリの蕾が見られ水場ではアズマヒキガエルの蛙合戦が始まっていて例年になく早い春の訪れとなった。

現在の日本の食料備蓄のクイズから観察会を開始。江戸時代は飢饉に見舞われ多くの餓死者が出た。それを救うため食べられる野草を字が読めない人にも解るようにと絵で表した「備荒草木図」を紹介し、実際食べられる植物探しに菖蒲田へと出発した。階段を下りた土手で食べられると思う植物を備荒草木図に載っているものには黄色の旗の竹串を、それ以外で食べられるものには赤い旗の竹串を立てていった。ツクシ、タビラコ、スミレ、ギシギシ、ミミナグサ、ハコベ、タンポポ、オオバコ、カラスノエンドウ… 赤や黄色の旗があちこちに立てられた。前日摘んで本に書かれた調理法で調理した 6 種の野草（備荒草木図に掲載されているもの）を参加者の皆さんに試食してもらった。多少苦みがあったが、子どもも食べてくれたのにはビックリやら嬉しいやら。食べられるものが結構あることを確認できた。

移動してシラカシの前で「カシの 15 の長所」を参加者に答えてもらった。農具の材にする、保水力がよい、発芽しやすい、ドングリは食べられる、防風になる…などしっかり答えてくれた。農業全書（江戸時代に書かれたもの）には類ない有用な木であるのでたくさん植えておくとよいと書かれている。

中菖蒲田の南向き斜面は常緑樹、北向き斜面は落葉樹となっている。落葉樹の林床は草刈りが行われ地面に光が届きカタクリが生育している。斜面の様子を見ながら「ももたろう」の絵本を見せる。おじいさんが山に柴刈りに行く様子、背負子を背負っている。この絵から伐採量の制限、時期の制限、道具の制限、伐採対象物の制限をして資源が枯渇しないようにしていた工夫が読み取れるとの佐野さんの解説に一同感心。切った木は薪に、刈った草は秣や肥料に、カヤは屋根の材料にと余すことなく利用していた。また明治時代の地形図（迅速測図）や空中写真を見せて菖蒲田が水田だったこと、周辺は松林だったことを見せた。少し進み杉林ではスギの切り株を見ながら柾目と板目の違いと利用方法を桶と樽の写真で見せた。午前中蕾だったコブシが終了間際、何輪か開花していた。古来日本では自然のリズムに従って農作業を行った。コブシの花が咲き始めたら稲の種まきだそうだ。コブシの開花に合わせるように私が関わっている田んぼでも丁度この日種籾を水浸した。